

「ひいおじいちゃんのせんそう（2019年当時のインタビュー）」

福田 聡さん（平成21年生まれ）

ひいおじいちゃんのしょうかい

① 生年月日

大正10年、4月3日生まれ（インタビュー当時97才）

② うまれ育った場所

長野県。（ぐんたいに行く21才まで。）

③ 今の暮らし、今の性格

21才から、4年半せんそうで中国へ行った。

せんそうが終わって帰ってきてから、けっこんし、福岡などでくらしした。

今は、東久留米市内にすんでいて、すもうを見たり、庭の手入れをするのがすき。

すしやうなぎをごちそうしてくれたり、ぼくのせいせきを見てほめてくれたりする、やさしいひいおじいちゃんです。

Q.せんそうの時代にどこで何をしていたのか？

21才の時から4年半せんそうに行った。

中国の北部、山西しょう太原市で、陸軍としてたたかっていた。

Q.せんそうに初めて行くときの気持ちは？

とてもはりきっていた。しっかりやるつもりで行った。

Q.せんじ中のいどうは、どんな乗り物で中国まで行ったのか？

昭和17年に長野から汽車で出かけた。広島から、かん国のぶ山まで船に乗り

ぶ山から、また汽車に乗った。日本から山西しょうに着くまで1週間、かかった。

Q.どんな役わりをしていたか？

たたかいのさく戦を考える。

Q.せんそう中に食べていたものは何？

米、麦、小麦粉、あわ、などを食べていた。何も食べられない時もあった。

Q.どんな武器を使っていたか？

てっぽう、大ほう、きかんじゅう、など使っていた。

Q.せんそうの中でもいんしょうにのこっていることは？

4年半のうち、せんそうじゃない休みの期間もあって、それは楽しかった。

Q.せんそう中に友だちができたか？

友だちはたくさんできた。せんそうが終わってから、時どきあつまっていた。

Q.仲間は、みんな帰ってこれたか？

亡くなった人もいる。病気、せん死など、いろいろ大ぜいいる。
帰ってこれた人もいる。

Q.せんそうが終わって帰ってきたときの気持ちやようす

中国で軍たいをかいじょして、一ばんの人になった。(終せん)

そしてまた汽車と船を乗りついで、長野に帰ってきた。

家族と4年半前にわかれてい来のさい会で妹たちのせが、のびて大きくなっていた。
みんながよろこんだ。

Q.せんそうとは？

国と国のケンカであり、人と人の殺し合い。

あいての国の人と殺し合うのがせんそう。

心を鬼にしてたたかわないと自分が殺される。

話せないようなつらいこともたくさんあった。

Q.ひいおばあちゃんの話

男の人たちがせんそうにでていってしまったから、女の人たちが国を守った。

ほいく園みたいな所でこもりをした。ぐんじえんしゅうもした。

へいたいさんのしせつにねとまりして、ほうたいをまいたりした。

愛知のとよはしで、空しゅうがあって B29（ばくだんを落とす飛行機）が
名古屋に向かって行くのをよく見た。となりの家の子が空しゅうで亡くなった。

ぼくのまとめ

ひいおじいちゃんとひいおばあちゃんの話聞いて、ぼくはせんそうをけい験していないけれどとてもこわくなった。

夏休みの間に、げんばくが落とされた日や、しゅうせん記念日もあったので
そういう時代もあったのかと思いました。

最近、北ちょうせんがミサイルをとぼしたり、かん国と仲が悪くなったりしているけれど、せんそうにはならないようにかい決してもらいたいと思った。



ひいおじいちゃん、福田武(フクタタケシ)さんの戦時中の写真

令和8年5月29日 寄稿